

夏秋きゅうり防除暦(前半)

JA中野市園芸課

JA 中野市きゅうり部会

	防除時期	使用薬剤名	水 100 倍 当りの量	使用量	使用 回数	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備 考
1	定植時 5月上旬 下旬	アクタラ粒剤5 オリゼメート粒剤		1g/株 5g/株	1 回 1 回	P2	4A	アブラムシ類、トマトハモグリバエ コナジラミ類 斑点細菌病	ベリマークSC処 理 苗 の 場 合、アクタラ粒剤5を使用しな くてもよい
2	5月 下旬	展着剤(ハイトンパワー) ウララDF ダコニール 1000	10mℓ 50g 100mℓ	200L	3 回以内 12 回以内	M5	29	アブラムシ類、コナジラミ類 べと病、うどんこ病、炭そ病、褐斑病 灰色かび病、黒星病	
3	6月 月上旬	展着剤(まくぴか) アルバリン顆粒水溶剤 オーソサイド水和剤 80	30mℓ 50g 166g		2 回以内 5 回以内	M4	4A	アブラムシ類、コナジラミ類、 アザミウマ類、ウリハムシ、カメムシ類 褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	
4	6月 上中旬	展着剤(まくぴか) アディオン乳剤 カーニバル水和剤	30mℓ 50mℓ 100g		3 回以内 3 回以内	40+M5	3A	アブラムシ類、オンシツコナジラミ ウリハムシ、べと病、 炭そ病、褐斑病、うどんこ病	
5	6月 中旬	展着剤(まくぴか) ダニサラバフロアブル プレバソンフロアブル5 ジマンダイセン水和剤	30mℓ 100mℓ 50mℓ 166g	300L	2 回以内 3 回以内 3 回以内	M3	25A 28	ハダニ類、ウリノメイガ、ハモグリバエ類 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	
特別	6月 中下旬	トップジン M ペースト (塗布)	原液		5 回以内	1		つる枯病	発病初期に接ぎ木部を 中心に地際から 20cm 塗布
6	6月 下旬	展着剤(ハイトンパワー) ダントツ水溶剤 ドーシャスフロアブル	10mℓ 50g 100mℓ		3 回以内 4 回以内	21+M5	4A	アブラムシ類、カメムシ類、 ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ類 炭そ病、べと病、うどんこ病、 褐斑病、黒星病、	
7	6 月下旬 ～ 7月上旬	展着剤(まくぴか) スピノエース顆粒水和剤 ダイパワー水和剤	30mℓ 20g 100g		2 回以内 5 回以内	M7+M4	5	アザミウマ類、ハモグリバエ類、 ウリノメイガ うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病	
8	7月上旬	展着剤(まくぴか) ジマンダイセン水和剤	30mℓ 166g		3 回以内	M3		べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	アブラムシ類の発生が心配 される場合は「ウララDF」 (2,000 倍)を加用する。
9	7月 中旬	展着剤(アビオン E) ヨーバルフロアブル カーニバル水和剤	100mℓ 40mℓ 100g		3 回以内 3 回以内	40+M5	28	ハスモンヨトウ、アブラムシ類、コナジラミ類 ウリノメイガ、ハモグリバエ類、アザミウマ類 うどんこ病、べと病、褐斑病、炭そ病	
10	7月 中下旬	展着剤(アビオン E) コロマイト乳剤 ミギワ 10 フロアブル	100mℓ 100mℓ 100mℓ		2 回以内 3 回以内	52	6	チャノホコリダニ ハダニ類、ハモグリバエ類、コナジラミ類 菌核病、炭そ病、つる枯病、灰色かび病	つる枯病が発生している場 合「スミレックス水和剤」 (1,000 倍)を加用する。
特別	7月 中下旬	トップジン M ペースト (塗布)	原液		5 回以内	1		つる枯病	発病初期に接ぎ木部を 中心に地際から 20cm 塗布
11	7月 下旬	展着剤(まくぴか) コルト顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤	30mℓ 25g 166g		3 回以内 3 回以内	M3	9B	アブラムシ類、コナジラミ類 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	
12	7 月下旬 ～ 8月上旬	展着剤(まくぴか) トレボン乳剤 ゲッター水和剤	30mℓ 100mℓ 66g		3 回以内 5 回以内	10+1	3A	アブラムシ類、コナジラミ類 褐斑病、炭そ病、灰色かび病、菌核病	

◎混用例：展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

当防除暦の複製・コピーを禁止します

夏秋きゅうり防除暦(後半)

	防除時期	使用薬剤名	水 100 倍 当りの量	使用量	使用 回数	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備 考
13	8月上旬	展着剤(ハイトンパワー) ディアナ SC セイビアーフロアブル 20	10mℓ 40mℓ 100mℓ	300L	2 回以内 3 回以内	12	5	アザミウマ類、コナジラミ類 ハモグリバエ類、ウリノメイガ 褐斑病、灰色かび病、菌核病	アブラムシ類が発生している場合は、「トランスフォームフロアブル」(2,000 倍)を加用する。
14	8月上中旬	展着剤(まくぴか) アルバリン顆粒水溶剤 ベルクート水和剤	30mℓ 50g 50g		2 回以内 7 回以内	M7	4A	アブラムシ類、アザミウマ類、 コナジラミ類、カメムシ類、ウリハムシ うどんこ病、褐斑病、 炭そ病、灰色かび病	ハダニ類が発生している場合、8 月中旬のカネマイトフロアブルを前倒して散布。
15	8月中旬	展着剤(まくぴか) カネマイトフロアブル ダイパワー水和剤	30mℓ 100mℓ 100g		1 回 5 回以内	M7+M4	20B	ハダニ類 うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病	
16	8月中旬～下旬	展着剤(ハイトンパワー) プレオフロアブル セイビアーフロアブル 20	10mℓ 100mℓ 100mℓ		2 回以内 3 回以内	12	UN	ウリノメイガ、アザミウマ類、 ハモグリバエ類 褐斑病、灰色かび病、菌核病	
17	8月下旬	展着剤(まくぴか) トレボン乳剤 オーソサイド水和剤 80	30mℓ 100 mℓ 166g		3 回以内 5 回以内	M4	3A	アブラムシ類、コナジラミ類 褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	褐斑病、炭そ病の発生がある場合は「オーソサイド水和剤 80」に代えて「ダイパワー水和剤」(1,000 倍)を散布する。
18	8月下旬～ 9月上旬	展着剤(まくぴか) ベルクート水和剤	30mℓ 50g		7 回以内	M7		うどんこ病、褐斑病、 炭そ病、灰色かび病	
19	9月上旬	展着剤(ハイトンパワー) ダコニール1000	10mℓ 100mℓ		12回以内	M5		炭そ病、べと病、うどんこ病 褐斑病、黒星病、灰色かび病	①害虫が発生している場合「プレバソンフロアブル5」(2,000 倍)を加用する。 ②アブラムシ類が発生している場合「コルト顆粒水和剤」(4,000 倍)を加用する。
20	9月中旬	展着剤(まくぴか) モレスタン水和剤	30mℓ 50g		3 回以内	M10	UN	うどんこ病、コナジラミ類	害虫が発生している場合は「トレボン乳剤」(1,000 倍)を加用する。
21	9月下旬	展着剤(まくぴか) トップジンM水和剤	30mℓ 66g		5 回以内	1		うどんこ病、炭そ病、灰色かび病 つる枯病、黒星病、菌核病	

混用順序：展着剤 → 液剤 → 乳剤 → 顆粒水溶剤 → 水溶剤 → フロアブル → ドライフロアブル(DF) → 顆粒水和剤(WDG) → 水和剤

- ※ 曇天・長雨などで日照不足時には「オルガミン(1,000 倍希釈)」と「ハイプログリーン(1,000 倍希釈)」を葉面散布する。
- ※ 散布間隔は 5～7 日を目安とし、降雨の前後は間隔を縮めて散布してください。
- ※ 農薬の混用順は下記を参考にしてください。
- ※ 気象条件や管理、品種等により発生病害虫が変わりますので、病害虫防除基準を参考にしに状況変化に対応して下さい。
- ※ アミスター20 フロアブル、アミスターオプティーフロアブル、フリントフロアブルは、浸透性のある展着剤(ニーズ、アプローチ BI、ミックスパワー等)とは混用しない。
- ※ うどんこ病が発生している場合は、発生初期にモレスタン水和剤 2,000 倍・ネクスターフロアブル 1,000 倍液で散布する。
- ※ IRAC・FRAC のコード番号が連続しないように防除を組む。

主な葉面散布剤

商品名	成分等	使用目的	倍率
オルガミン	窒素 0.11%、苦土 4%、ほう素 0.7%、加里 0.11%、マンガン 0.25%、アミノ酸入り	光合成促進、成疲れ回避	1,000 倍
ハイプログリーン	窒素 6%、リン酸 5%、カリ 5%、アミノ酸入り	成疲れ回避・光合成促進	500 倍
アミノメリット特青	窒素 12%、リン酸 3%、カリ 3%、アミノ酸、ホリン酸、マンガン、ほう素、鉄、銅、亜鉛、モリブデン入り	成疲れ回避・光合成促進	500 倍
ボロンセブン	窒素 3%、リン酸 6%、カリ 5%、ホウ素 7%、マンガン 5%、苦土 5%	ホウ素欠乏(くびれ果)対策	1,000 倍